



発行 東区人権尊重啓発連絡会議 事務局: 東区総務部 生涯学習推進課 (TEL645-1144) (FAX645-1042) 題字 池見 裕道氏 挿絵 田村真知子氏

第1回東区人権セミナー(令和7年7月23日)

いのちの贈りもの ～ドナーと共に生きる～

ピアニスト 児嶋 由紀さん

児嶋さんは、自らの人工透析、腎臓移植の体験を基に小中学校での命の授業やピアノ演奏を交えた人権市民講座の講師として、つなぐ命の大切さと共に移植医療への理解を呼びかける活動に取組まれています。

講演会では、慢性腎臓病(CKD)や、ご自身の発病から透析・移植に至る経緯、移植後の体の変化や想い、臓器提供に関する日本の現状等について、言葉を選びながら丁寧に話されまし

臓器提供、臓器移植は別の次元のこと、自分には関係のないことと思われがちですが、誰もがドナー(提供する人)やレシピエント(移植を受ける人)の立場になりえます。

運転免許証・マイナンバーカード等には臓器提供の意思表示をする欄があります。心の余裕のある時に「もしものときのこと」を考える時間を持ち、それを家族に話しておくことが、自分の

東区人権を考えるつどい(令和7年10月9日)

生徒の「学びたい」想いを大切にしたい 福岡きぼう中学校とは

校長 内田 久徳さん

令和4年4月福岡市に九州初の公立夜間中学「福岡きぼう中学校」が開校しました。公立夜間中学とはどのような学校なのか、どのような生徒がどのような目的を持ち学んでいるのか等のお話を聞きながら、「学びとは何か」について考えました。

教育課程は、生徒の実情に応じて組み立て、生徒のニーズにあうよう学習スタイルをつくっているそうです。現在、戦後の混乱や不登校等の理由で義務教育を十分に受けることができ

夜間中学は、週5日の授業や学習内容など義務教育の中学と区別されておらず、教育課程を修了すれば中学校卒業資格が得られます。一般的に学習という昼の学校をモデルに考えてしまいがちですが、公立夜間中学である「福岡きぼう中学校」は、多様な生徒の学びのニーズに応えることができる数ある学習機会の一つとして捉えることができます。



ためだけではなく、周囲の人たちへの深い思いやりともなります。一度表示した意思表示は何度でも変更できるそうです。児嶋さんは、臓器提供をしていた方とそのご家族や、医療関係者、移植コーディネーター等、自分を支えてくださった多くの方に感謝しながら、最後に、「私の役割は、伝える、繋げることです」と結ばれました。お話しの間にはピアノ演奏も交えて、和やかな雰囲気の中で講演会は終了しました。

参加者の感想

● 透析や移植について、何も知らなかったと気づきました。誰かのためにできることを私もしたいです。 ● 臓器提供をする、しないに関わらず、考えてみるのが大事だと思った。



● 素晴らしいピアノ演奏と力強い旋律に、ドナーと共に生きていることを感じました。 ● 意思表示についてよく考えてみたいと思った。命を考える良い時間になりました。 ● もっと家族と命についてゆっくり話ができる時間を作りたいと感じた。 ● 人権は命そのものです。自分の命を大切に、他の人の命も大切にすることがより良く生きることに繋がると思った。

参加者の感想

● 主な入学理由は「読み書きを学びたい」「不登校で未経験のことを経験したい」「仕事に生かしたい」「日本語を身に付けたい」などがあり、多くの生徒が友だちとのコミュニケーションを求めているとのこと。 ● 学校生活は、授業の他に自然教室やスポーツフェスタ、修学旅行などの行事や他校とのオンライン交流も行っています。 ● これらの学習活動で経験した、小さな成功体験の積み重ねにより、生徒の自尊心に変化が見られ、自信を持ち始めてきているそうです。 ● 最後に、「学び」の最終ゴールは「豊かな人生・生活の実現」だと話されました。 ● 今後丁寧な取組を大切にしながら、福岡市以外の九州各県に開校し始めている学校とともに、新たな教育課



団体紹介

東区青少年育成連絡協議会

会長 三角 安徳

東区青少年育成連絡協議会は、校区において、青少年の健全育成や非行防止を目的として活動している団体が、相互に交流や情報交換を行うことにより、各校区における青少年の健全育成及び非行防止活動の活性化と推進を図ることを目的として、組織されました。 連絡協議会では、東区内の各小・中学校区の青少年健全育成を推進する団体の代表者が連携し、それぞれの活動を積極的に推進すること、よりよい校区活動へ繋がっています。

区全体としては、年4回の全体会や研修会を通じて情報・意見交換を行うほか、毎年9月には東警察署と合同で、宮崎宮「放生会」での防犯パトロールに参加し、青少年の犯罪や事故の未然防止に努めています。

また、青少年の健全育成促進や非行防止対策として、地域環境や青少年の生活実態などを把握し、その阻害要因と考えられる諸問題を早期発見することで実情に即した対策・指導を行う「東区少年愛護パトロール員」の推薦や、青少年の初発型非行を防ぐため、青少年と接触の多いコンビニエンスストアなど地域の店舗の協力を得て、青少年への「愛の声かけ」等の活動を行う「青少年を見守る店」の推薦も行っています。

その他にも、文化・芸術活動を通じて青少年相互の交流を深める「ユースフェスタ・ひがし(東区こども青少年文化祭)」の開催支援などにも取り組み、地域に根ざした活動の推進と充実を図っています。 近年、急速な少子化や地域コミュニティの希薄化により、青少年を取り巻く社会環境は大きく変化しています。いじめや不登校、非行などの問題に加え、インターネットやスマートフォンを使った犯罪やSNSを通じた闇バイトや薬物犯罪など、青少年に関する問題は多様化しており、こうした状況の中でも、地域ぐるみで大人たちが青少年を見守り育てることがますます重要になっていきます。



放生会防犯パトロール



香椎下原校区人権尊重推進協議会

(令和7年6月28日)

映画上映

ぼけますから、よろしくお願いします。



香椎下原校区人権協
原田会長

認知症になると本人や家族はどうなるのでしょうか。映画上映という手法で迫った人権協会長にインタビューをしました。

ねらいは何ですか

昨年、なみきスクエアでのこの映画上映に校区で取りまとめ申し込みをしたのですが、少し遅れたため満員となり、参加することが出来ませんでした。見た方から「身につまされた」とてもよかったとの声があり、そこで自

分たちみんなで見ようと思い、映画上映を行いました。ねらいは、校区の人々に認知症について実際に知ってもらうためです。

反響はどうでしたか

身につまされたという感想が数多くありました。家族のことも重ね合わせてご覧になったようです。また是非こんな企画をしてほしいとの声を多数の方からいただきました。

人権協と公民館の共催でしたが

一緒に会議をして進めていきました。映画の配給会社とのやり取り、お金の件は人権協が行い、会場作りや広報・案内は公民館が行いました。一日で4回上映し、参加しやすいようにしまし

た。
● **これからの目標はなんですか**
人権のことについてまず知ってもらうことです。次の研修ではワークショップ形式で参加しやすいようにして広げたいです。

参加者の声

● 老いるという現実をありのまま見せていただきました。近い将来の自分を見るようでした。
● どんな時も、人に感謝をしながら生きることの大切さを改めて感じました。

公民館の声

● **成果** 認知症の方ご本人の苦しみ悲しみがよく伝わりました。
● **課題** 地域と家族が助け合って生活するにはどうしたらいいか。
● 多くの人に広げ、次につながる映画上映でした。

第54回人権を尊重する市民の集い

(令和7年12月8日 東区会場)

部落差別の現状と課題

今後の展望と人権教育のあり方

関西大学社会学部教授 内田 龍史さん

福岡市では毎年12月4日から10日までの一週間を「福岡市人権尊重週間」と定め、様々な啓発活動を行っています。



内田龍史さん

今年も関西大学の内田龍史さんを講師に招き、同和問題についての講演会がありました。

【部落差別の現在】

近年、部落差別をリアルに感じる機会が少なくなり、マジョリティ(多数

【部落解放に向けて】

「出会い、学び、経験を通して知らない社会につながっていく。」

香椎第2中学校PTA(令和7年9月20日人権学習参観後) 2中ラジオでみんなほっこり

ラジオパーソナリティー 椎葉 ユウさん

2中ラジオとは、ラジオパーソナリティーの椎葉ユウさんが、生徒や保護者のアンケートを基にお話を進めていく校内放送です。

ぼかぼかメッセージ生徒編

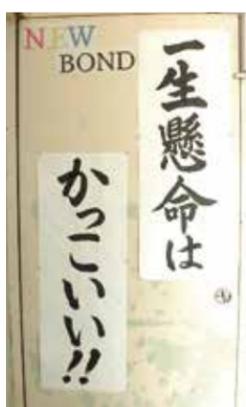
- 3年生の先輩とペア、試合に負けて「最後の試合がお前によかった。負けただけ悔いはない」
- 落ち込んだ時、母が「自分のペースでいいんだよ」
- 母に悩みを相談したら「なるようになる。死にはせん」など
- **ぼかぼかメッセージ保護者編**
- 「うちで食べるご飯が一番おいしい」と聞いた時
- 短冊に「生まれ変わってもまたこの家族でいたい」と書いているのを見た時

川柳 生徒編

- 事件です 床でくたばる 私の母
- 母のこと 悪く言う父 おおる
- 父の誘い めんどくさいが 大好きだ
- 思春期の生徒の保護者を見る目や感じ方がとてもよく表れています。
- **川柳 保護者編**
- 金色の 賞を目指して 響く音
- ムスメから メイクを学ぶ 40代
- 同じ月 見ていた ちがう帰りの道
- 朝出するな 水着帽子に バスタオル
- クスツとした笑いととも温かい雰

日ごろ感じている生徒や保護者の思いを共有することで生徒たちは、自分が大事な存在であることを再認識していきます。

放送後の保護者の感想では、「2中ラジオを初めて聴きました。とても楽しく和気あいあいとした雰囲気。先生や子どもたちから伝わってきました。子どもたちの発言も前向きな言葉がとても多く心配や悩みもありながら成長しているのだと改めて思いました。」これが元祖2中ラジオでした。



扉に貼られたこの言葉に感動!!

人権尊重週間 東区の入選作品

ポスター



中学2年生

人権標語

「その言葉 かがみにむかって 言えますか」

小学5年生

「全員が 同じなわけじゃないからさ みとめあおうよ 相手の個性」

小学6年生